

平成 27 年 3 月 13 日

関東ラグビーフットボール協会
会 長 貴島 健治 様
関西ラグビーフットボール協会
会 長 坂田 好弘 様
九州ラグビーフットボール協会
会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会
専務理事 矢部 達三



**「競技規則第 5 条」についてのルーリング 2015-1(競技規則の確認)
(通達)**

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。

日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

スコットランド対ウェールズ戦の試合後に生じた、試合終了の笛を吹いたレフリーの決定に関する議論を受け、ワールドラグビーのハイパフォーマンスレフリーマネージャー、Joel Jutge 氏が、競技規則の明確化を求めた。

状況 1

試合終了間際にトライがされた。コンバージョンキックが蹴られ、蹴られた時点での時計の残り時間は 5~10 秒、すなわち、79:50 だった。

質問:

レフリーは、試合の再開を認めるのか、または、時計が 80:00 になった時点(すなわち、40 分)試合終了を告げる笛を吹くのか? 7 人制では、15 人制とは異なる一連の競技規則が定められている。このような特定のケースにおいて、より明確であり、こういった議論を避けることができる 7 人制の競技規則を適用することを検討してはどうか?

15人制の競技規則:

5.7 (e) 「試合時間が終了したが、ボールがまだデッドではない、あるいは、スクラムまたはラインアウトが与えられそれらがまだ終了していない場合、レフリーは次にボールがデッドになるまで競技を続行する。スクラム、ラインアウト、反則しなかった側のプレーの選択、ドロップアウトをレフリーが与える場合、あるいは、コンバージョンまたはペナルティキック成功の後、ボールはデッドになる。スクラムを組み直さなければならない場合、スクラムはまだ終了していない。試合時間が終了した後、マーク、フリーキック、またはペナルティキックが与えられた場合は、競技を続行する。」

(f) 「トライが得られた後に試合時間が終了した場合には、レフリーは、コンバージョンキックのための時間を与える。」

7人制の競技規則（実際の試合において）:

試合時間最後の40秒以内にトライしたチームについては、キックをしてもしなくてもよく、キックをしない、あるいは、残り時間を使ってキックを行うならば、試合が再開され、試合は競技規則に則り次にボールデッドとなった時点で終了する。時間はボールが蹴られた瞬間から計測される。

状況 2

試合終了時に与えられたペナルティにも、同じ論理を適用することができるのか？例えば、79:50の時点でペナルティが与えられ、チームがタッチに蹴ってラインアウトをしようとしたら、どうなるのか？

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

状況 1

試合終了間際にトライをしたチームは、コンバージョンキックを行っても行わなくてもよい。キックをしない、あるいは、残り時間を使ってキックを行うならば、試合が再開され、試合は競技規則に則り次にボールデッドとなった時点で終了する。時間はボールが蹴られた瞬間から計測される。

質問にあるコンバージョンが79:50に蹴られた具体的なケースについては、レフリーが試合再開を認めるべきである。

状況 2

同じ論理が適用される、すなわち、ペナルティキックが80:00より前に蹴られるのであれば、試合は、競技規則に従って次のボールデッドとなった時点で終了する。時間はボールが蹴られた瞬間から計測される。

以上